

【小学校低学年の部】最優秀賞

まもりたいもりのしぜん

大分市立金池小学校 2年

よしむら あすみ
吉村 亜純

「ねえね！ どどめ、食べよう！」

今日も3さいの妹が、木のみを見つけて、わたしは、とてあげた。

わたしは大分市中心ぶに住んでいる。上のというところだ。学校にかようのに、すごく遠くて、近くにすんでいる人がうらやましくなる時がある。それに、車がとおれない山みちを一人で歩くのが、ときどきつらい。

今年の7月のとてもあつい日。学校から帰っていると、きゅうにすずしくかんじた。森のしげみのおかげだった。森の木たちが、「あつかったでしょ？」とでもかえてるみたいで、ひかげですすしくしてくれているんだなと思った。

森には、いろいろなものがある。かなへび、セミの合しょう、赤くかがやくぐみのみ、水に入れてふると石けん水になるムクロジ、ヨモギ。この森はほいくえんのさんぽでよく来ていたから、森のしょくぶつを見ると、そのワクワクを思い出す。

春(といってもまださむいころ)には、よもぎの新めをつんで、すりこぎですって、よもぎもちをつくったり、いろいろなはっぱで、ほかけぶねやワッペンをつくったりしてたくさんあそんだ。

森をぬけ、学校へむかうどうろに出ると、じめんがあつくてあつくて、くるしくなる。ずっと森のようない道だったらいいのになとも思う。

お母さんのふるさとのくすには、たくさんのしぜんがのこっている。でも、大分市はたくさんのたてものができ、みどりがとてもすくない。わたしは、大人になった時、みどりの森や川、歌っているような小鳥たちがいっぱいの大分にしたい。

これからも、しぜんをよくかんさつしたり虫たちをそだてたりして、いろいろなことを学んで大人になりたい。